

平成26年 9月 9日

九州地方整備局

佐賀国道事務所

## 記者発表資料

きゅうらぎ

### 厳木バイパス全線開通

#### 全線開通後の整備効果について【3ヶ月後】

厳木バイパス全体延長6.3kmのうち<sup>おうちながへた</sup>相知長部田IC～<sup>いわや</sup>岩屋IC間の延長2.1kmが平成26年3月1日に開通し、今回、開通3ヶ月後の交通状況等について調査を実施しましたのでお知らせします。

#### 【開通区間の状況】

- 厳木バイパス（相知長部田IC～岩屋IC）の交通量は約7千台/12時間
- 今回開通区間に並行する国道203号の交通量が約6千台/12時間減少
- なお、厳木バイパスが全線開通したことにより、厳木バイパスの既開通区間（浪瀬IC～牧瀬IC）では、交通量が約2千台/12時間増加

#### 【開通に伴う主な整備効果】

##### ●交通安全性が向上！

並行する国道203号の現道交通量の減少に伴い、交通事故が平成25年同月と比べ3分の1に減少しました。

#### 問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所

TEL：0952-32-1151（代表）



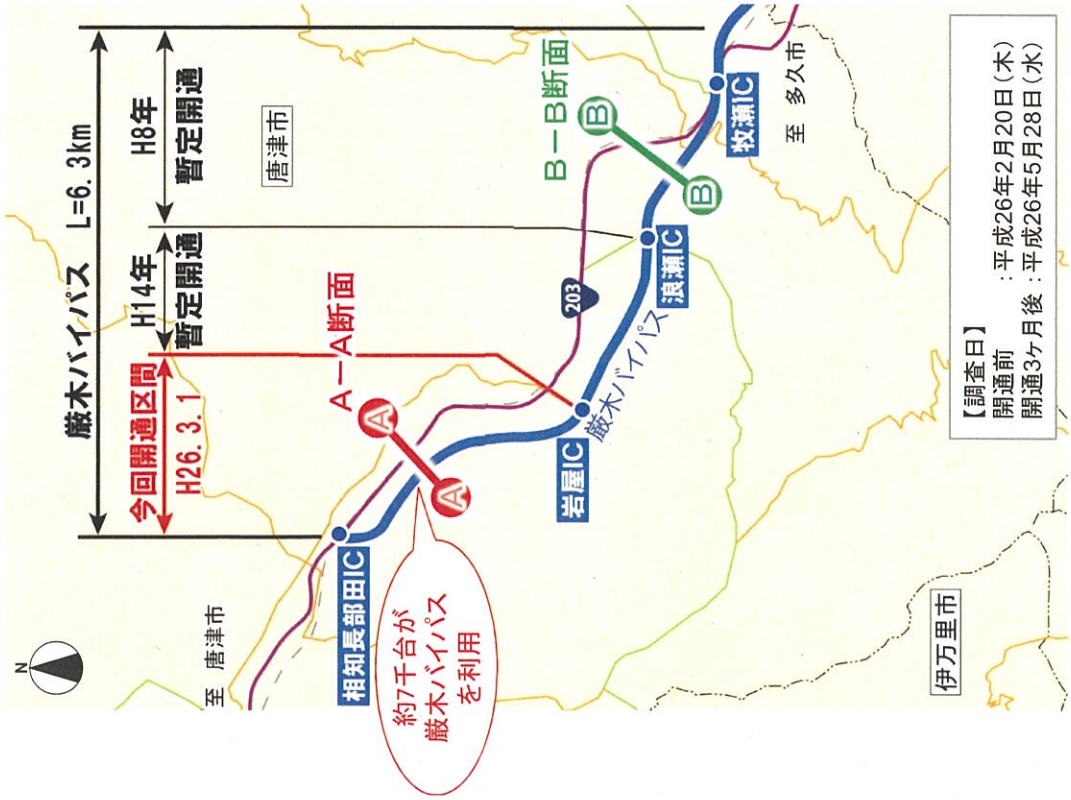
技術副所長 <sup>かい</sup>甲斐 <sup>ひろみ</sup>浩己（内線204）

調査課長 <sup>いとう</sup>伊藤 <sup>やすひろ</sup>康弘（内線451）

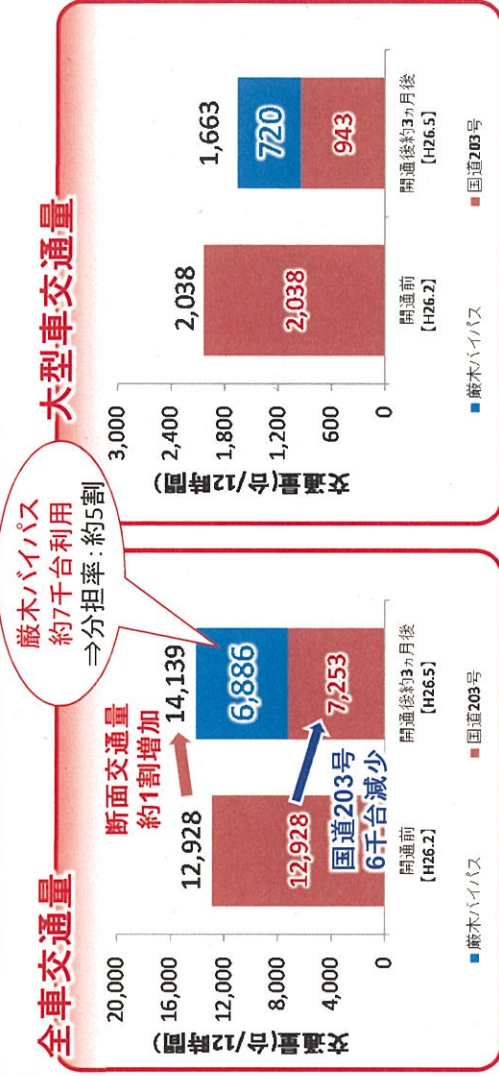
# 開通区間周辺の交通状況

# 蔵木バイパスの交通量は約7千台/12時間

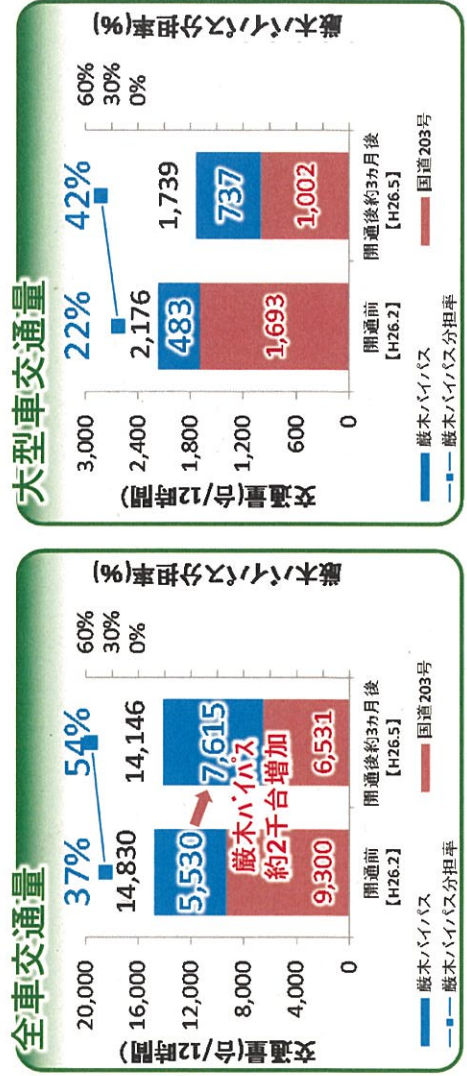
- 今回開通区間(相知長部田IC～岩屋IC間)の交通量は12時間あたり約7千台となっています。断面交通量(蔵木バイパス・国道203号の合計)は開通前:12,928台/12時間→開通後:14,139台/12時間と約1割増加しています。
- 今回開通区間の交通量の分担率は約5割となり、並行現道(国道203号)の交通量は約6千台減少しています。
- 既開通区間の浪瀬IC～牧瀬IC間では、交通量が約2千台/12時間増加しています。



## A-A断面: 相知長部田IC～岩屋IC断面



## B-B断面: 浪瀬IC～牧瀬IC断面



【調査日】  
開通前 : 平成26年2月20日(木)  
開通3ヶ月後 : 平成26年5月28日(水)

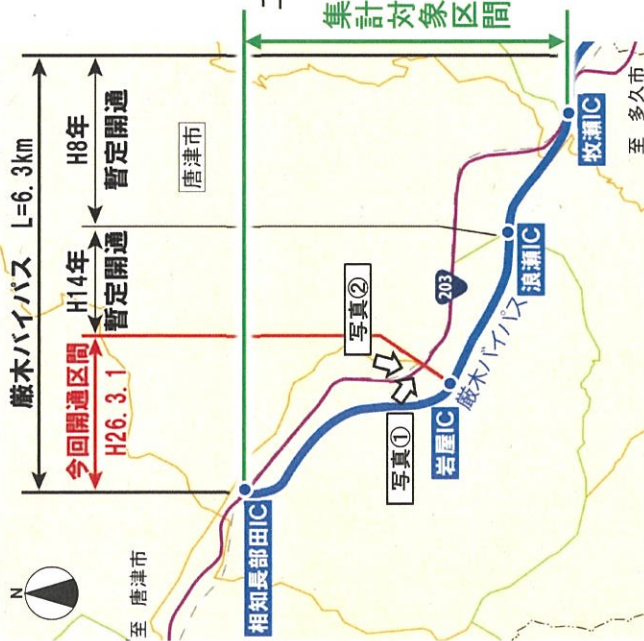
▲ 国道203号・蔵木バイパスの交通状況

# 交通安全性が向上

# 並行する国道203号の安全性が向上

## 国道203号の事故件数が減少

■ 国道203号の交通量の減少に伴い、交通事故件数は開通前：6.0件/2ヶ月 → 開通後：2.0件/2ヶ月と**3分の1に減少**しました。



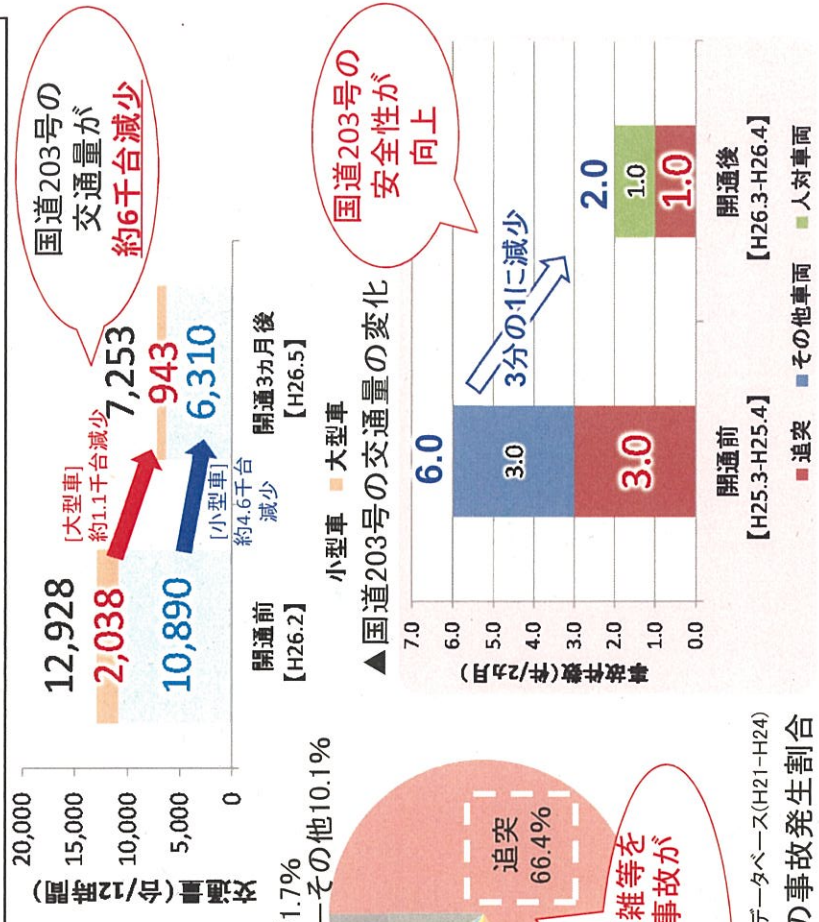
写真①



写真②

▲ 歩行者通行状況 (蔵木町本山)

▲ 国道203号を走行する大型車の状況



国道203号の交通量が約1.1千台減少  
約6千台減少

国道203号の安全性が向上

開通前は交通混雑等を要因とする追突事故が多く発生



資料：佐賀県警提供  
▲ 国道203号の交通事故発生状況

## 道路利用者

- ・ 国道203号は、道幅が狭く、民家の軒が車道に近接しており、大型車通行時には接触の恐れがあった。大型車が蔵木バイパスに転換してくれることにより、これらの危険性が解消できる。
- ・ **大型車が転換することにより歩行者の安全性も向上すると思われる。**

資料：道路利用者への聞き取り調査結果(H26.6)